

何か物事を始めるに際し、必ず最初の一步が存在します。その一步を踏み出す勇氣がなければ、どれほど壮大な構想も「絵に描いた餅」に終わってしまいます。

世にいう成功者も、周囲から「そんなことはできるはずがない」と言われながら、それでも自らを信じ、勇氣を振り絞って最初の一步を踏み出した人たちです。

長崎県に創成館高等学校という高校があります。生徒一人ひとりの個性を最大限に引き出し、その力を社会で発揮できる人材の育成を教育理念に掲げています。現在では高校野球の強豪校として甲子園に度々出場し、進学実績にも優れた高校として知られています。しかし、わずか十数年前は、荒れた校風で地域に知られる学校でした。

現在の第六代校長・奥田修史校長が就任した当時のことです。体育館で「この度、校長に就任しました奥田修史です。どうぞよろしくお願いします」と挨拶をすると、「お前が校長か」「笑わせるな」「さっさと帰れ」と生徒たちのヤジが飛び交いました。すると奥田校長は、「今、文句を言ったのは誰だ。一人ずつ舞台上に上がってこい。正面から受けて立ってやる」と、生徒たちと真正面から向き合いました。それが学校改革への第一歩だったのです。

そこから奥田校長は、一步一步着実に学校を変革していきました。魅力ある授業を実現するために教師たちと連日議論を重ね、放課後には生徒たちの様子を自ら見て回りました。ある日、街で生徒がゴミを拾う姿



勇氣ある第一歩が 組織の未来を拓く

を見かけました。すぐに駆け寄り、「君、偉いな」と心から称賛しました。生徒一人ひとりと本気で向き合い、さらに倫理法人会で学びを深め、活力朝礼も導入しました。学校全体が同じ方向を向き始め、少しずつ学校は生まれ変わっていったのです。

現在、オープンスクールは一日では収まりきらず、二日間で延べ二千名以上が来校するほどになりました。締めくくりに、奥田校長自らがメインボーカルとなり、*OPEN*の代表曲を熱唱します。バックバンドは在校生です。校長が全身全霊で歌い、生徒も全力で演奏し、教師はそれぞれの持ち場で来場者を温かく迎える。その一体感あふれる姿に、中学生や保護者は心を動かされ、「この学校で三年間学びたい」「この学校に子供を通わせたい」と感じるのだそうです。学校教育は、ともすると「あれをしてはいけない」「こうあるべきだ」と、子供の可能性を狭めてしまうことがあります。しかし奥田校長は、「我が校は何をするにも自由である。ただし、その自由には責任が伴う」と語り、自由と責任を両輪として教育を実践しています。

創成館高校が変わったのは、一夜にして奇跡が起きたからではありません。校長自らが信念を持ち、勇氣ある第一歩を踏み出し、その歩みを積み重ねた結果なのです。また来年には、大きく成長した三年生が新たな人生へ向けて一步を踏み出します。そして期待に胸を膨らませた新入生が、新たな一步を刻み始めることでしょう。